

特集  
エコサミット入門



開催地となる、北海道洞爺湖町。 写真提供：アフロ



DATE : 2008.07.07~07.09

HOST CITY : 北海道洞爺湖地域

PARTICIPATING COUNTRIES : 日本、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、ロシア、英国、アメリカ、EU



サミットの首脳会議場となる、「ザ・ウィンザーホテル洞爺」。 写真提供：亀田則道/アフロ

今年7月、北の大地で重要な国際会議が開かれます。  
北海道洞爺湖サミット——  
その最大のテーマは、気候変動問題です。  
温暖化の危機が切迫している今、  
このサミットで世界全体がどんな取り組みを打ち出せるか、  
大きな注目を集めています。  
今回の特集では、このサミットを大分解！  
主要テーマから、開催地での環境への取り組みまで、  
徹底分析します。

## Q1 サミットの最大のテーマは？

気候変動問題が最大のテーマになるでしょう。もちろん他にも重要なアジェンダ（議題）はありません。サブプライム問題に端を発する経済問題は、アメリカなどは日本が考えている以上に重視しているでしょう。あと、8月に開かれる北京オリンピックを控えて、中国がチベット問題にG8までにどう対応していくかも注目されています。しかし、サミットの主要テーマは、ホスト国の意向が強く反映されます。いま、日本が一番強く打ち出したいのは気候変動問題でしょう。

2005年にイギリスで開かれたグレンイーグルズ・サミットで、今回のサミットまでに気候変動問題に関して何らかのまとめを行うという「宿題」が日本には出されています。それに加えて、COP（気候変動枠組条約締約国会議）での国際交渉も世間の注目を以前より集めるようになってきます。こうした内外での関心の高まりもあって、日本はサミットで気候変動問題を主要議題として考えているのです。

## Q2 サミットで温暖化問題は解決できるの？

かつて気候変動問題はCOPの場で議論していれば良いテーマでした。しかし、去年のサミットあたりから、サミットの場での議論が重視されるようになってきました。それは、COPでは扱いきれない要素が出てきたからです。最大の要因は、世界最大の温室効果ガス排出国である、アメリカの京都議定書への不参加です。アメリカに直接交渉する場合は、COP以外のフォーラムを利用しないといけなくなりました。そこで、サミットがアメリカと話し合う場として浮上してきたわけです。

また、COPは基本的には各国から行政官が集まる場です。彼らは具体的な実務には長けていますが、「2050年までに温室効果ガスを何ppmまで減らす」といった、ハイレベルな政治決断が必要な長期目標を打ち出すことはできない。京都議定書の第一約束期間（2008～2012年）以降

の「次期枠組み」、いわゆる「ポスト京都」をどうするかという話が出てきたときに、「地球全体としてどう具体的な目標を立てていくか」という議論が不可欠になってきました。こうした高度な政治決断を問う場として、G8サミットが注目されるようになってきたのです。

## Q3 「ポスト京都」へのサミットの影響力は？

COPの交渉に影響を与えるような重要な決定ができるかどうかは、まだクエスチョンですね。その理由のひとつに、アメリカが11月に大統領選を控えているというタイミングの悪さがあります。アメリカの場合、政権が変わると大きな政策転換がある。あと数カ月の政権と、G8で交渉しないといけないという制約はあります。

## Q4 ホスト国である日本の役割って？

日本は去年ドイツで開かれたハイリゲンダム・サミットで「2050年までに世界全体の温室効果ガスを半減させる」ことを目指す「クールアース50」という構想を提案しました。その「次」の提案が今度は求められるでしょう。それは、たとえば2030年までの中期目標なのかもしれないし、あるいは本当に半減を実現するための具体的な行動計画かもしれない。いずれにしても、次にどれだけ大きなステップを踏み出せるか、世界各国が注目しています。

また、日本は京都議定書でマイナス6%の約束をしていますが、いまやさらに当時より6%も上がっており、6%達成のためには12%以上も減らさなくてはならない。しっかりと削減達成の見込みを示さないと、世界各国の信頼も得られません。まず、自らの行動で範を示す必要があるでしょう。

サミットをめぐるさまざまな疑問に、環境政策や地球温暖化問題に関するエキスパートたちがお答えします。

質問へのお答え

Q1～4 国立環境研究所 地球環境研究センター  
温暖化対策評価研究室主任研究員 亀山康子さん

## Q5 洞爺湖サミットでは、どんな環境配慮の取り組みが行われるの？

サミットの会場では、さまざまな形で環境に配慮した取り組みが行われます。報道機関が情報を発信する、留寿都村の「国際メディアセンター」では、冬の間に貯蔵した雪のエネルギーを利用した雪冷房システムや太陽光発電装置、そして室温を下げるため壁面緑化などを取り入れています。また、メディアセンターでは、日本の環境への取り組みや技術を示す「環境ショーケース」の設置も予定されています。ほかに、燃料電池車などのシャトルバスによる会場間の移動や、サミットで排出したCO<sub>2</sub>を埋め合わせる、「カーボン・オフセット」の取り組みなども行われる予定です。

## Q6 「カーボン・オフセット」って、どんな仕組みのことですか？

私たちが生活する上で、どうしても排出してしまう温室効果ガス。自分の力で減らす努力をすることが重要ですが、それでも温室効果ガスは排出されてしまいます。「カーボン・オフセット」とは、政府や企業、個人などが、自分たちでは削減が難しい部分の排出量について、他の場所でも実現した温室効果ガスの排出削減量や吸収量（これを「クレジット」といいます）を購入したり、または他の場所でも排出削減や吸収を実現するプロジェクトなどを実施することによって、出してしまった温室効果ガスを埋め合わせる（オフセットする）仕組みのことです。

2005年にイギリスで開催されたグレンイーグルズ・サミットでは、全体で約4千トンのCO<sub>2</sub>が排出されましたが、イギリス政府は、「オフセット」することを目的として、南アフリカのケープタウンにおける住宅のエネルギー向上プロジェクトからのクレジットを購入すると発表しました。

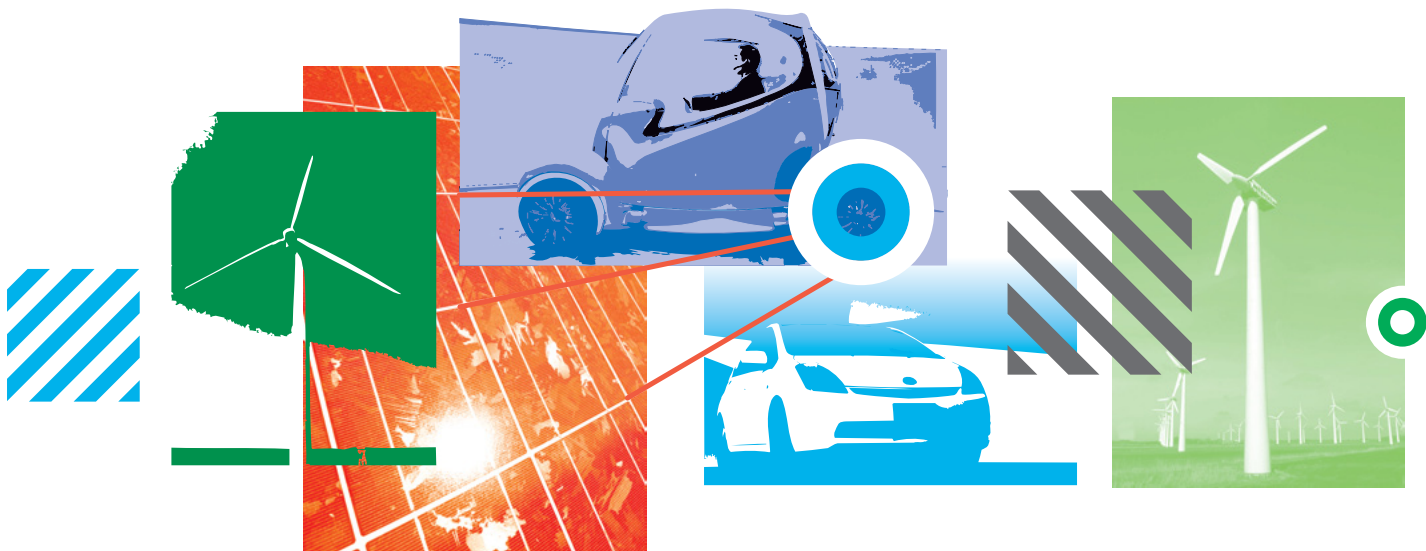
国内では、宅配便の佐川急便が「CO<sub>2</sub>排出権付き飛脚宅配便」のサービスを、またコンビニエンスストアのローソンが、買い物をして貯めたポイント等とCO<sub>2</sub>削減量が交換できる、「CO<sub>2</sub>オフセット運動」を始めています。私たちの身近な暮らしの中でも、この仕組みにチャレンジすることができそうです。

## Q7 サミットで、日本が発信すべきことって、何ですか？

サミットにおいて日本が発信すべきことは、二つあります。一つ目は、世界が今かつてないくらい、重大な環境危機に直面しているということ。このまま地球の表面温度が上がっていくと、あと5年で北極海の氷は消滅するとも言われています。昨年12月に発表されたドイツとイギリスの共同研究ではあと10年程で、グリーンランドの氷床が全面融解を開始し、2050年頃までには、アマゾンの熱帯雨林が枯れて一部砂漠化するという予測がなされています。こうした最悪の場合を考え、もう時間がないんだ、ということの世界の人々に理解してもらう必要があるのです。もう一つ日本が発信すべきことは、危機を解決する策があるということです。その解決策としての、エコライフというのはどういったものなのか。具体的にそのイメージを伝えることも、日本の今回の課題の一つだと思います。

## Q8 日本発の「エコライフ」って、どんなもの？

エコライフとは、エコ・プロダクツやエコ・サービスといったものを徹底的に進化させ、私たちが日常的に使う生活のことだと私は考えています。たとえば、机や椅子、パソコンなど、私たちの身の回りにあるものを、エコ・プロダクツに換えていくことからエコライフが始まるのです。日本には、省エネ家電製品やエコカー、燃料電池など、さまざまな優れた環境技術があります。製造過程でも、とことん環境に配慮した「ものづくり」をする。それが、ムリ・ムダ・ムラを徹底的に省いてきた、日本の「ものづくり」の遺伝子だと言えるでしょう。戦後の一時期、日本は大量生産・大量消費の生活様式に慣れ、「もったいない」という言葉に代表される、ものを大切にする伝統を見失ってしまいました。伝統的なエコ生活様式に、新しい技術によるエコ・プロダクツを取り入れた生活こそが、まさに私たちが目指すべきエコライフであり、国際社会に発信すべきメッセージなのだと思います。



### 質問へのお答え

Q5 エコジン編集部

Q6 社団法人海外環境協力センター主任研究員  
カーボン・オフセット・フォーラム (J-COF) ディレクター 加藤真さん

Q7,8 東京大学生産技術研究所サステナブル材料国際研究センター 山本良一教授

Q9 開催地ではどんなエコ活動が行われているの？

写真／キッチンミノル 文／さくらい伸



**SVF車**  
洞爺湖町の町役場では、現在2台の公用車でバイオ燃料を利用しています。バイオ燃料はシャトルバスでの使用も検討中。



**ペレットストーブ**  
洞爺湖温泉の宿泊施設では、この地域で製造されるペレット（木製チップ）を利用したストーブを設置し、電力の削減に貢献しています。



**雪蔵**  
JAとうや湖に建設された雪蔵野菜貯蔵施設。2年間試験を繰り返し、平成19年度より本格的に移動しました。雪深い土地ならではの天然のエネルギー資源を活用した施設です。右は、雪蔵に貯蔵されたじゃがいも。



**バイオ燃料施設**  
福祉施設「デイセンターふみだす」内の施設では、近隣から回収した廃油をろ過し、バイオ燃料を生成しています。燃料を利用する職員によれば、バイオ燃料を使用したSVF車は音が静かだとのこと。

また、温泉地として知られる洞爺湖町では、宿泊施設などから出された廃油をバイオ燃料化し、軽油と併用しながら町役場のディーゼルエンジン搭載の公用車2台に使用。2台で年間約6トンのCO<sub>2</sub>排出を抑えることが可能です。

伊達市には、福祉施設内に廃油をバイオ燃料に変えるための施設が。給食センターやホテルから回収した廃油をバイオ燃料化し、職員の自家用車や送迎車に使用するほか、燃料の販売も行っています。

「福祉という命を扱う仕事に携わる者が、命の拠り所である自然環境について考えるのはむしろ当然のこと。こうした施設が、地域の子どもたちへの環境教育の一環になれば、との思いもあります」と、「社会福祉法人・伊達コスモス21 デイセンターふみだす」所長の大垣勲男さん。

こうした取り組みは、「今回のサミットが引き金になったことは確かですが、もともと大自然とともに生きる意識の強い洞爺湖周辺の住民たちにとって、環境保護への関心の高まりはごく自然の流れ」（洞爺湖町役場産業課長・傳正宏さん）のよう

洞爺湖サミットの開催を契機に、開催地である洞爺湖町を中心に、近隣の伊達市、豊浦町、壮瞥町では、「チーム洞爺湖・マイナス50%事業」と銘打った環境保全活動を進めています。

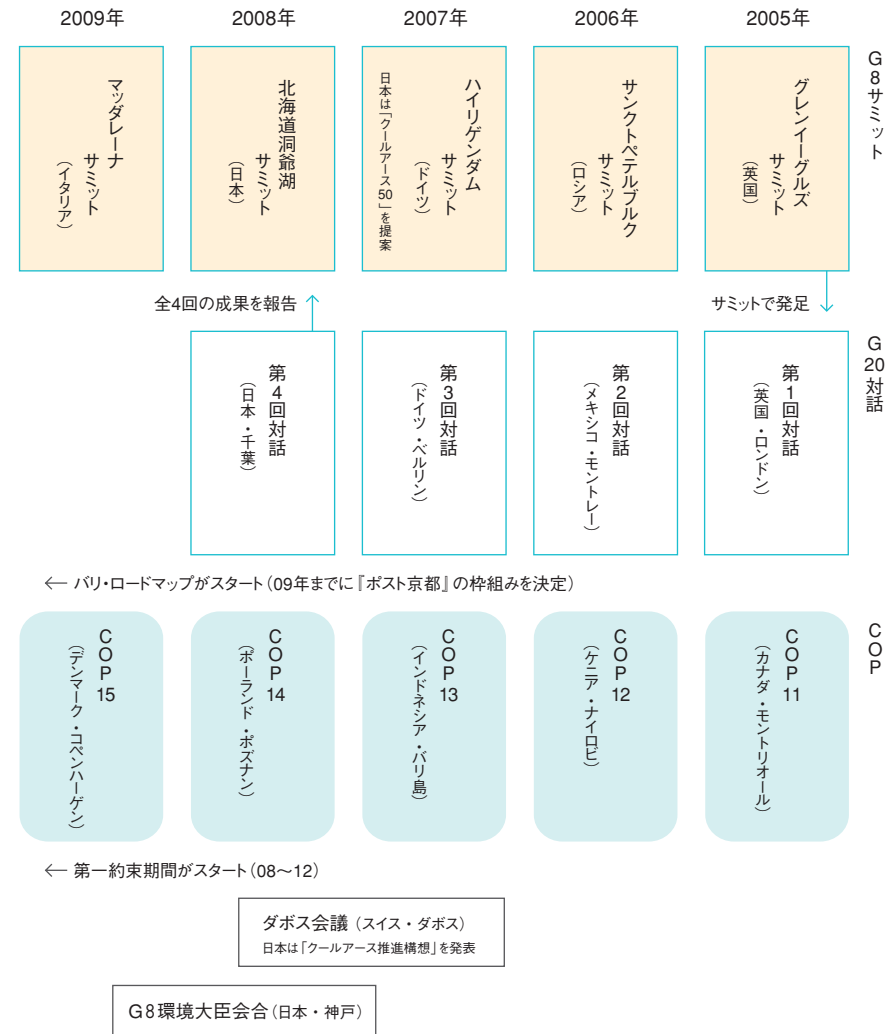
この地域全体で2030年までに温室効果ガスをCO<sub>2</sub>換算で50%削減することを目標に、さまざまな取り組みに着手。この活動は、環境省の平成19年度「環境と経済の好循環のまちモデル事業」にも認定されています。

取り組みの一つが、「JAとうや湖」による雪熱を利用した大規模な農作物貯蔵庫施設です。「雪蔵野菜貯蔵庫」と名付けられた施設の氷雪庫に、500〜1000トンの雪を保管。雪という天然のエネルギーを活用し、農作物の熟成に最適な温度・湿度に保つシステムを構築しています。

これによって、年間約280MWhの商用電力を削減し、年間約155トンのCO<sub>2</sub>削減を実現。さらに、「雪蔵で保存された野菜は、甘味と旨味が増すと評判です」（JAとうや湖営農販売部部長の木村直樹さん）というメリットも。

## Q10 サミットと、他の国際会議の関わりはどうなっているの？

気候変動問題に関する国際会議



2005年に開かれたグレインイーグルズサミットをきっかけに「G20対話（気候変動、クリーンエネルギー及び持続可能な開発に関する閣僚級対話）」という国際会議が開かれるようになりました。これは、温室効果ガス主要排出国の環境・エネルギー担当閣僚が一堂に会し、議論を行うもの。最終回は今年3月、千葉で開かれ、全4回の対話の成果が洞爺湖サミットで報告される予定です。

また、サミットに先駆けて、「G8環境大臣会合」も5月24〜26日に神戸で開催されました。これは、G8と欧州委員会の環境担当閣僚が集まり、環境問題に関して意見交換を行うもの。毎年、サミット議長国が主催して開かれる会議です。今年も気候変動問題がサミットの重要議題ですから、いつにもましてこの環境大臣会合の役割が大きくなります。

昨年ドイツで開かれたハイリゲンダムサミットで、日本は「2050年までに世界全体の温室効果ガスの排出量を半減させる」ことを目指す「クールアース50」という提案を行いました。さらに、今年1月のスイス・ダボス会議では、「クールアース推進構想」という、半減を実現するための構想を、福田総理が提案。日本のリーダーシップに世界の期待がかかっているのです。

今年も、京都議定書の「第一約束期間」がスタートする重要な年。国際社会は、来年のCOP15では、「ポスト京都」の枠組み決定を目指しており、今回のサミットはまさに気候変動問題を解決するための、大きな流れの中心にあるのです。

## Q11 私たちが参加できるイベントはあるの？

サミットそのものに一般の方が参加することはできませんが、6月から7月にかけて、北海道各地ではさまざまなサミット関連イベントが開催されます。サミットを機に、温暖化や環境技術、環境教育などをテーマにした、エコを身近に感じられるイベントに参加してみたいかですか？

## サミット関連 エコ・イベントカレンダー

<p><b>6/1</b> (日)</p> <p><b>洞爺湖ビジターセンター「エコ・ギャラリー」オープン</b></p> <p>at 北海道洞爺湖ビジターセンター</p> <p>主催：環境省 洞爺湖ビジターセンター：http://www.toyako-vc.jp エコギャラリー：http://www.touyako-ecogallery.jp</p>	<p>地球温暖化や、生物多様性、3Rなど、さまざまな環境問題に関する日本の施策を紹介する環境学習施設、「エコ・ギャラリー」が洞爺湖ビジターセンター敷地内にオープン。6月1日には、オープニングセレモニーが開催される。「エコ・ギャラリー」では、洞爺湖周辺の自然のみどころや、美しい日本の自然の紹介展示を見ることができる。</p> <p>詳しくは、P23のエコジャーナルを参照。</p>
<p><b>6/19</b> (木) → <b>6/21</b> (土)</p> <p><b>北海道洞爺湖サミット記念環境総合展2008</b></p> <p>at 札幌ドーム</p> <p>主催：北海道洞爺湖サミット記念環境総合展2008実行委員会 http://www.do-summit.jp/kankyouten2008</p>	<p>洞爺湖サミットを記念して、札幌ドームで3日間をわたり開催される「環境総合展2008」。最先端のエコテクノロジー、エコプロダクツを紹介する展示のほか、環境先進企業や環境団体、大学や研究機関などによるセミナーやワークショップなどが行われる。</p>
<p><b>6/23</b> (月) → <b>7/11</b> (金)</p> <p><b>サステナビリティ・ウィーク2008</b></p> <p>at 北海道大学ほか</p> <p>主催：北海道大学 http://sw2008.jp</p>	<p>「持続可能な社会」の実現に向けて、北海道大学がシンポジウムや講演会を集中的に開催する「サステナビリティ・ウィーク」。地球温暖化や生態系などのテーマについて議論し、情報を発信するために、世界中から研究者や教育関係者が集まる。学生や市民が参加できるイベントも開催される。</p>
<p><b>6/27</b> (金) → <b>6/29</b> (日)</p> <p><b>こども環境サミット札幌</b></p> <p>at 札幌市 モエレ沼公園 サッポロさとらんど 札幌サンプラザ</p> <p>主催：こども環境サミット札幌実行委員会 http://www.city.sapporo.jp/kankyo/event/2007/csummit</p>	<p>世界の子どもたちが交流し、地球環境の未来についてみんなで学び、考える「こども環境サミット札幌」が開催される。アルピニスト、野口健氏によるレクチャーや、野外活動、市民との交流イベントなどを通じて環境問題についての理解を深め、最終日にはメッセージを発表する。</p>
<p><b>6/28</b> (土)</p> <p><b>環境サミット2008 in 函館</b></p> <p>at 函館国際ホテル</p> <p>主催：函館市 http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/kankyo/hozen/sumit/top.html</p>	<p>「100万人のキャンドルナイト」の呼びかけ人代表である環境運動家、辻信一氏による、地球温暖化をテーマにした基調講演のほか、辻氏と北海道のNPO法人代表とのパネルディスカッションが行われる。前日の夜には、旧シーボートプラザ前広場において、キャンドルナイトが開催される。</p>
<p><b>7/5</b> (土) → <b>7/6</b> (日)</p> <p><b>グローバル環境教育国際会議2008</b></p> <p>at 北海道教育大学 札幌キャンパス</p> <p>主催：北海道教育大学 http://www.hokkyodai.ac.jp/toya-sum</p>	<p>地球環境問題の解決を考える上で、環境教育は大きなテーマの一つだ。洞爺湖サミットを機に、地球規模（グローバル）の問題と、身近な地域（ローカル）における問題の両方の視点から、環境教育という世界共通のテーマについて国際的に論じ合うための会議が開催される。</p>